

山弓連

平成16年
第2号
7月31日
発行

平成16年度全日本弓道選手権大会

関東地域代表選手決定大会

平成16年7月18日

山梨県スポーツ公園小瀬武道館弓道場

7月18日、平成16年度全日本弓道選手権大会関東地域代表選手決定大会が小瀬弓道場で開かれた。その名の如く弓道の日本一を目指す為の関門となる権威ある大会、参加選手は各地連から男女4名づつ計90名、いずれも錚々たる顔ぶれで、この中から関東代表男女各5名づつ選出される。山梨からは、河西伊三男、佐野 巳、芦沢茂幸、望月勝男、標衣枝、小林弘子、佐野弥生、大和田幸子、の8名出場し、関東の強豪と技を競った。権威ある大会を運営するために、役員も山弓連総動員態勢(競技員長・天野裕、総務委員長・秋山照美、運行委員長・藤本芳朗、射場審判・中沢利正、ほか称号者、大会出場経験者、高校顧問を各部所に配置)をとり、こちらも最強軍団を結成して臨む。そして、結果は如何に〜。

午前10時、有賀理事長の開会宣言も高らかに。竹本関東地連会長の挨拶は『全国をリードする関東勢の力と誇りを』と激励。安藤主管地連会長『この会場は日本一の富士山の登山口に直結する道につながっている。今日ここから日本一に向かって力強く踏み出されんことを』と。矢渡し、中沢範士が、練達の技を披露、満場感嘆、標、笹本、両介添との呼吸もピッタリ。

そして試合開始。まず各自2射づつ2回の第一次選考(村型、体配、的中総合の採点制で、男女各15名づつを選ぶ。一つ気が付いた事は、昨日の公開練習では殆ど的を外さなかったのに、今日は意外に的中が伸びないこと、これほどの練達者でも緊張感からは逃れないのか、弓の難しさをあらためて感じた。結局一次選考が山梨勢では河西選手が3位通過したのみ。他は惜しくも涙をのんだ。2次も同じ方式で各5名に絞る、更に厳しい戦いとなり、その中で河西選手は好調を維持して今回も3位。みごと代表権獲得。

ちなみに代表権獲得数は、埼玉3、神奈川、群馬、栃木、茨城、東京一、東京二、山梨、各1。千葉と東京三がゼロ、となった。

運営も全員協力で 大過なく進行して無事終了。大変ゴク로우サマでした。(安藤会長)

関東地域選抜選手権大会出場選手

去る5月30日行われた代表決定戦にて選ばれた選手

開催日程平成16年11月28日(日)

小瀬武道館弓道場

称号受有者の部

教士七段・河西伊三男 佐野辰巳

錬士五段・白須吉人 中込 実 組沢 篤

補欠(錬士五段 桜井健三 錬士五段 古屋裕元)

有段者の部

五段・柳本武彦 新藤康平

四段・細野晃史 河西宏齊

三段・矢野宏幸

補欠(五段 荒井寿一 五段 若杉年久)

春日居町 藤まつり県下弓道大会

平成16年4月29日(木)

由緒ある山梨岡神社境内の藤棚の下、雲一つ無い快晴のもと、春日居町藤まつり県下弓道大会が開催されました。県内行事が重なり参加者は少なかったものの、競技は真剣そのもの、特に個人優勝決定戦では、細野、雨宮、両氏による射詰めが行われ9射目で細野晃史氏に決定すると言う、息を飲む白熱戦となりました。的中のたびに境内に太鼓の音が鳴り響き、雰囲気も抜群、女性部員の腕を振るった鯉こくも大会の目玉の一つで評判も上々。

満開の藤棚の下でゆったりとした時間を共有することが出来た一日でした。

試合結果 団体戦24射 ○の中の数字 的中数

優勝 勝沼 ⑩(平山孚、若杉通子、三森君江)

2位 富士吉田⑨(小山田みち子、田辺茂夫、武藤喬)

3位 甲府 ⑦(竹村栄寿、細田正樹、内田堅治郎)

個人戦8射

優勝 細野晃史⑦ 2位雨宮正裕⑦ 3位池上和宏⑦

4位 望月勝男⑥ 5位内藤幸雄⑥

金的・望月勝男

五色板割 緑・小笠原八束 ピンク・望月勝男

紫・細野晃史 青・天野裕 赤・三浦孝一

(春日居町支部広報部)

第13回甲府市長杯県下弓道大会

平成16年6月6日(日)

恒例の大会に学生、一般90名近くの参加をえて開催されましたが、近隣アパートの爆発騒ぎで4射にて中止せざるを得ず、参加していただいた選手の皆様には誠に申し訳無く思っています、来年こそは、すばらしい大会にしたいと思います。

個人戦は、4射皆中の7名による競射で、目を見張る接戦で大会の最後を締めくくり終了しました。(甲府支部長)